

本年度の重点	1	学力の定着・学習意欲の向上を図る
目標（評価規準）	○一人ひとりの生徒が主体的に活動し自己肯定感のもてる授業実践 ○「基礎基本の定着が実感出来る授業実践 ○家庭学習の定着と職員の共通理解の具体的取り組みをすすめる ○教員の工夫した授業実践による授業力の向上を目指す	
重点に係る現状 設定理由	○教師力・授業力の向上により、「わかる楽しい授業」が主体的な授業参加・学習意欲の向上につながる ○授業の予習・復習を家庭学習として行うことで、より主体的な授業参加が期待できる	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	① 生徒が主体的に学ぶための授業づくりの工夫改善をしているという設問には94％が肯定的回答をしている。 ② 基礎基本の定着が出来る授業・学習指導が行われているという設問には83％が肯定的回答をしている。 ③ TTやICTの活用を用いて一人ひとりの生徒に丁寧に指導しているという設問には100％が肯定的回答をしている。 ④ 生徒に家庭学習の大切さを教え取り組むための指導工夫をしているという設問には55％が肯定的回答だった。
各アンケート等の結果	上記設問 ①の設問について、生徒の95％が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は57％であった。 ②の設問について、生徒の95％が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は67％であった。 ③の設問について、生徒の91％が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は52％であった。 ④の設問について、生徒の92％が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は51％であった。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○各設問について、教職員と生徒については、肯定的回答が高かった。 しかし、保護者の肯定的回答は多少下回った結果になった。 ＊各設問で教職員・生徒の回答と保護者の回答に大きな隔たりがあった。 各設問に対して「わからない」という回答が20％前後あったことも ふまえ、情報発信や学校状況の丁寧な伝達が必要である。 ＊家庭学習については例年同様保護者の肯定的回答は低かった。 タブレットを利用した家庭学習を推進したが、情報提供を更に丁寧に進めていく必要がある。
学校関係者評価結果	開催日荒天が予想されたため、書面開催にて実施。（次年度、第1回目詳細説明）
最終改善方策	○ ICT機器の有効活用を更に進め、生徒が主体的に学習に取り組める環境づくりをすすめる。 ○ 保護者へ生徒の学習状況が確実に伝わるための情報発信の工夫をすすめる。 ○ 引き続き、家庭学習の定着のために具体的な取り組みを行っていく。

本年度の重点	2	「生きる力」「豊かな心」を育成する指導の充実
目標（評価規準）	○生きる力・豊かな心を育むことでより主体的な生活態度をもたせる ○生徒一人ひとりに居場所があり、仲間と協調して生活ができる ○問題の未然防止、早期発見・早期解決を図り、自分が大切にされていることを実感できる学校づくりをすすめる	
重点に係る現状 設定理由	○学習環境だけでなく、行事や部活動でも充実した取り組みができるような環境を整える ○いじめなど、嫌な思いをする生徒がでないよう、適応サポート委員会などを機能させ具体的な取り組みをすすめ、安心して生活できる学校環境を整える	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	①「総合的な学習の時間」「道徳」などの教育活動を通して「思いやりの心」「他人を尊重する心」が育っているという設問には100%が肯定的回答をしている。 ②挨拶や礼儀など基本的な生活習慣が身につく指導をしているという設問には89%が肯定的回答をしている。 ③生徒を理解し生徒との信頼関係を築けているという設問には、94%が肯定的回答をしている。 ④問題行動やいじめ、欠席の多い生徒への対応など、早期発見・早期対応解決につとめているという設問には100%が肯定的回答をしている。
各アンケート等の結果	上記設問 ①の設問について、生徒の96%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は62%であった。 ②の設問について、生徒の92%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は78%であった。 ③の設問について、生徒の90%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は72%であった。 ④の設問について、生徒の92%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は44%にとどまった。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○今年度は、道徳授業や生徒会の取り組みにおいて積極的な取り組みを行った。結果、職員の肯定的回答が昨年より高くなった。 *生徒との関係づくりは、日常的に必要なものである。働き方を考えながら生徒と接する時間の確保も必要となる。 *挨拶や礼儀などは、「人として」必要なことであり、基本的なこととして指導を確実に行っていった結果、肯定的回答が高くなった。 *学校での取り組みが、地域・保護者に伝わるように情報提供をしていく。
学校関係者評価結果	開催日荒天が予想されたため、書面開催にて実施。（次年度、第1回目詳細説明）
最終改善方策	○引き続き、一人ひとりにとって安心できる、それぞれに居場所がある学校環境をつくっていく。 そのために必要な「人間力」「生きる力」を養える指導を日常的に行っていく。 ○いじめの早期発見、対応、解決を心がけ、日常的に生徒との関係づくりを進める。

本年度の重点	3	家庭・地域との連携推進と発展をはかる
目標（評価規準）	○PTA・学校評議員会・青少年育成団体などを通して家庭・地域との連携をすすめる ○学校教育の現状を理解してもらうため、市民センターに学校だよりの掲示を継続して 行い情報発信につとめる ○小学校とも連携し相互に授業参観・研修会などを行い一中小の良さを生かした教育を すすめる	
重点に係る現状 設定理由	○開かれた学校づくり推進のため、地域・保護者の方の来校機会を増やし、学校の現状 を理解してもらい、また、職員・生徒を地域行事に積極的に派遣する ○小学校との連携を充実させ小中9年間で生徒を育てていく	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	①保護者会・PTA活動・体育祭などを設け積極的に学校公開に取り組んでいるという設問については、 100%が肯定的回答をしている。 ②登下校時の挨拶や地域行事を通して地域への感謝の気持ちを持たせるという設問については、 50%が肯定的回答であった。 ③学校からのお知らせ・配布物から学校の様子が伝わっているという設問については、 72%が肯定的回答であった。
各アンケート等の結果	①保護者への、学校は積極的に学校公開に取り組んでいるという設問には、84%が肯定的回答であ った。 ②登下校時や保護者・地域の方や来校者への挨拶についての設問には、生徒の50%が肯定的回答 をし、保護者の肯定的回答は60%であった。 ③学校からのお知らせ配布物から学校の様子が伝わるという設問では、生徒の79%が肯定的回答を し、 保護者の肯定的回答は73%であった。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○学校公開などの取り組みについては、積極的に行って来た。 肯定的回答も高かった。 ○登下校時挨拶や地域への感謝の気持ち、という設問については、生徒の 肯定的回答が10%以上低くなった。中学生の地域行事への参加も 減ってきている事も要因の1つと考えられるが、地域で生活する一人 として、挨拶などは当たり前大切にさせたい。 ＊「地域の学校」として、今後も本校の教育活動への理解と 協力をいただくため、小学校との連携も含め工夫した取り組みを 強化し進めていく。
学校関係者評価結果	開催日 荒天が予想されたため、書面開催にて実施。（次年度、第1回目詳細 説明）
最終改善方策	○ PTAへの任意加入やボランティア化により、より多くの保護者の方に活動方法を工 夫し学校教育に積極的に関わっていただくための活動を進めていく。 ○ 小学校、地域とも更に連携を強化し、地域の学校として開かれた学校づくりを進 めていく。